



生命と健康を守る。

ディーブイエックス株式会社
株主通信

2025年3月期中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで


証券コード3079




代表取締役社長


柴崎 浩

To Our Shareholders

 株主の皆様へ

今後も適切なコスト管理と収益力強化に注力し、
企業価値の向上に努めてまいります。

 当中間会計期間の業績について総括をお願いします。
また、2025年3月期の業績予想についてもお話しください。

 症例数の増加により売上高は好調に推移し、売上総利益も
増加しましたが、粗利率が低下したほか、新規事業の推進や

既存事業の強化に伴う投資、成長に向けた人材採用などにより
人件費や外部委託費といった販管費が増加した影響により、
営業利益以下の各段階利益は前年同期と比較して減少
しました。

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年5月

15日に公表した業績予想を据え置いておりますが、今後の業績動向を精査、注視して、修正の必要がある場合は速やかに公表いたします。

Q 不整脈事業の市場の見通しと事業戦略についてお話をください。

A 国内における不整脈事業の市場は、高齢化社会がさらに進行することに伴う患者数の増加や治療技術の進歩、治療機器の普及により、今後も成長が見込まれます。

心房細動の新たな治療法として2024年9月に保険適用されたパルスフィールドアブレーションは、従来のカテーテルアブレーションと同等の効果が期待されるだけでなく、合併症リスクが低く安全で手術時間も短縮されることが期待されていますので、症例数の増加にも繋がるものと考えております。

従来のカテーテルアブレーションは、高周波電流や冷却剤を用いて心筋組織を焼灼または冷却し、心房細動の原因を取り除きます。それに対し、パルスフィールドアブレーションは「電気パルス」を使用します。

不整脈事業においては、引き続き粗利率の低下が見込まれることから、仕入先メーカーと一括買い取りやインセンティブ契約の交渉のほか、高利益率商品の販売を進めてまいります。

Q 虚血事業の市場の見通しと事業戦略についてお話をください。

A 国内における虚血事業の市場は、高齢者の増加に伴い安定した成長が見込まれる一方で、自動造影剤注入装置「RAQUOS」の市場は成熟期にあります。同製品は導入期にあるため、市場での認知度を高め、製品特性を活かして買い替え需要を確実に捉え、シェア拡大を目指してまいります。

Q その他事業の市場の見通しや事業戦略についてお話をください。

A その他事業に含まれるTAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)やTEVAR(胸部大動脈ステントグラフト内挿術)などの国内市場は、低侵襲治療であり高齢化とともに成長が見込まれています。当社としては新たに進出した領域となることから、販路開拓を進めてまいります。

また、利益率改善のため、自社企画品の拡販にも努めてまいります。

Q 中期経営計画のローリングについて教えてください。

A 当期5月15日に「中期経営計画のローリングに関する

お知らせ」を開示しました。

中期経営戦略の骨子に変更はありませんが、経営環境の変化や最近の業績動向等を踏まえ、新たに2025年3月期から始まる3カ年の数値計画を策定しました。

【中長期戦略骨子】

- (1) 利益率、生産性向上～医療への持続的な貢献～
 - ・独自製品拡充
 - ・DXによる物流・事務省力化
- (2) 地域的依存度低減～コア事業での競争力の保持～
 - ・バランス経営のもとでの全国シェア拡大
 - ・労働・資本生産性に基づく意思決定
- (3) 強靱な事業ポートフォリオ
 - ～リスクの分散とニーズの追求～
 - ・代理店・商社・開発のバランス
 - ・ニーズ志向の新商品導入促進
- (4) 新たな成長基盤の強化(市場)
 - ～世界中の生命と健康を守る～
 - ・海外市場開拓
 - ・隣接事業開拓
- (5) 成長基盤の強化(組織)
 - ～技術・環境の変化を機会にする～
 - ・女性活躍推進
 - ・多様な人材育成

Q 本社移転が決議されましたが、移転の理由や業績への影響についてお聞かせください。

A ・移転後本社所在地：
東京都港区港南1丁目8-15 Wビル21階
・移転時期：2025年4月(予定)

6月開催の株主総会において、本社移転に関する定款の一部変更についてご承認いただきましたが、本社機能の拡充、業務の効率化、および優秀な人材の確保を図るため本社を移転することといたしました。2025年3月期の業績への影響は軽微であります。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として、企業価値および株式価値の向上を図ることで株主還元を継続的かつ安定的に強化する。配当については、DOE(株主資本配当率)5.0%以上を目途に配当額を決定する方針としており、2025年3月期の配当については、1株当たり50円(配当性向117.5%)を予定しております。

今後も市場環境を注視しつつ、持続的な成長に向けた施策を適切に実行し、目標達成に努めてまいります。

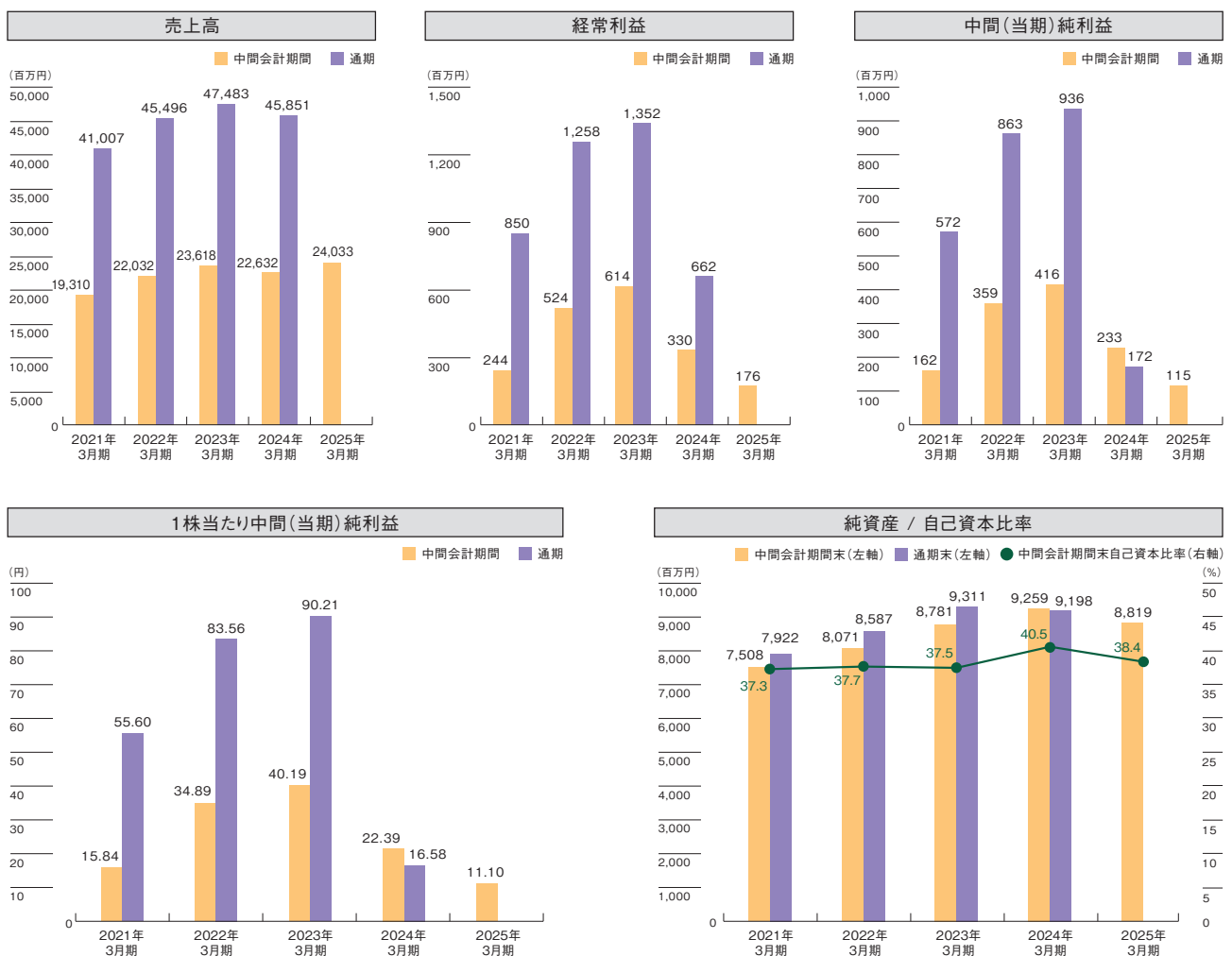
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト (2024年4月1日～9月30日)

当中間期決算のポイント

不整脈事業・虚血事業が好調に推移した一方、戦略的な経費支出を積極的に行ったことから、前年同中間期比で増収・減益となりました。

当中間会計期間の売上高は240億3千3百万円(前年同期比6.2%増)、営業利益は1億7千7百万円(同45.2%減)、経常利益は1億7千6百万円(同46.6%減)、中間純利益は1億1千5百万円(同50.3%減)となりました。



ポイントの解説

1 売上高

不整脈事業は症例数が徐々に回復し、カテーテル類の販売数量が増加しました。虚血事業は自動造影剤注入装置の販売が順調に推移し増収となりました。その結果、当中間会計期間における売上高は、前年同中間期比で6.2%増加し、240億3千3百万円となりました。

2 営業利益

売上総利益が前年同中間期比で2.7%増加しましたが、販売費及び一般管理費は、人件費が増加したほか、戦略的な経費支出を積極的に行ったことから、前年同期比で10.4%増加しました。その結果、営業利益は前年同中間期比で45.2%減少し、1億7千7百万円となりました。

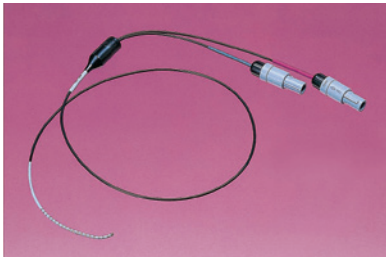
事業セグメントの状況

不整脈事業 Arrhythmia Business

当中間会計期間実績

売上高204億4千6百万円

主に、電気生理検査用カテーテル及び冷凍アブレーション用カテーテルの販売数量が増加したことから、当中間会計期間の売上高は20,446,760千円（前年同中間期比4.9%増）、セグメント利益は2,003,766千円（前年同中間期比2.5%増）となりました。



電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテルやアブレーション（焼灼）治療用カテーテルなどがあります。

虚血事業 Ischemia Business

当中間会計期間実績

売上高13億9千9百万円

主に、自動造影剤注入装置関連及びその他消耗品の販売数量が増加したことから、当中間会計期間の売上高は1,399,239千円（前年同中間期比20.9%増）、セグメント利益は163,095千円（前年同中間期比9.7%増）となりました。



自動造影剤注入装置
「RAQUOSインジェクションシステム」

売上高
240億
3千3百万円

事業セグメント別売上高構成比

不整脈事業	85.1%
虚血事業	5.8%
その他	9.1%

*「その他」においては、脳外科商品、一般外科商品、消化器商品、放射線防護用品などを販売しております。

営業の概況

Operating Results

医療現場での課題解決に資する高度な専門性を活かした提案型営業による既存顧客の深耕と新規顧客の獲得を行うとともに、メーカーとの関係強化を通じて、仕入コストの低減にも取り組んでまいりました。その結果、当中間会計期間の売上高は当初計画を上回りました。

2025年3月期（通期）の業績予想

Outlook

2024年5月15日公表の通期予想を据え置いております。

2024年5月15日公表の2025年3月期の業績予想に対し、当中間会計期間における進捗率は売上高49.4%、営業利益26.5%、経常利益26.4%、当期純利益26.1%となっております。通期の業績予想につきましては、今後の業績動向を精査し、修正が必要と判断した場合は速やかに公表いたします。

2025年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2025年3月期	48,619	668	668	444
2024年3月期 (実績)	45,851	653	662	172
増減率(%)	6.0	2.3	0.9	157.1

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<https://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

DVx

検索

再製造単回使用医療機器 (R-SUD) について

R-SUD使用加算の新設

2024年6月の診療報酬改定により、再製造された単回使用医療機器 (R-SUD) を手術で使用した医療機関に対し、新たに診療報酬が加算される制度が導入されました (当該特定保険医療材料の所定点数の100分の10に相当する点数)。

医療機関のコストに見合うメリットが少ないなどの理由に

より導入率が低かったR-SUDですが、この加算により、R-SUDの使用が増加し、資源の有効活用、医療廃棄物の削減、医療費の低減、安全性の確保などが期待されています。

R-SUDは以下のとおり、通常の単回使用医療機器 (SUD) より安価な材料価格が設定されています。

114 体外式ペースメーカー用カテーテル電極

(2) 心臓電気生理学的検査機能付加型		(3) 再製造	
② 冠状静脈洞型	64,000円	① 冠状静脈洞型	51,400円
③ 房室弁輪部型	145,000円	② 房室弁輪部型	93,200円

168 心腔内超音波プローブ

(1) 標準型	(3) 再製造
299,000円	① 標準型 209,000円

算定要件

R-SUDの使用加算を受けるには、以下の施設基準を満たす必要があります。

- R-SUD (特定保険医療材料に限る。) を手術に使用した実績が5例以上あること。
- R-SUDを使用することについて、あらかじめ文書を用いて患者に説明を行っていること。
- R-SUDの原型医療機器の回収等について、再製造単回使用医療機器基準 (平成29年厚生労働省告示第261号) 第4の1(5)に規定する「再製造単回使用医療機器の製造販売の承認の際に交付される承認書に記載された方法」に基づき、適切に実施していること。

R-SUDの概要

基本的な考え方

- 使用済み単回使用医療機器 (一回限り使用できるとされている医療機器。以下SUD) を医療機器製造販売業者がその責任のもとで適切に収集し、分解、洗浄、部品交換、再組立て、滅菌等の処理を行い、再び使用できるようにすることを「再製造」と定義。
- R-SUDによる製品を製造販売するには製造販売業の許可が必要。
- R-SUDはオリジナル品とは別の品目として承認が必要。
- R-SUDに係る医薬品医療機器法上の責任は再製造を行った製造販売業者が担う (オリジナル品の製販業者と必ずしも同一ではない)。

対象となる医療機器

- 国内の医療機関で使用されたSUDが対象。
- 植込み型医療機器は対象外。
- 原則、使用成績評価期間中の新医療機器は再製造の対象外。
- 脳、脊髄、硬膜、脳神経節、脊髄神経節、網膜又は視神経に接触したものの、感染症法に定める感染症 (一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症若しくは新感染症の患者) の治療、検査等に使用されたもの、最大再製造回数の再製造がなされたものは再製造には用いない。

クラス分類・一般的名称

- オリジナル品と同一クラス分類 (ただし、クラスIの再製造品はクラスIIとしての承認対象)。
- オリジナル品の一般的名称の冒頭に「再製造」の文字を追加したもものとして新設。

使用済みSUDの選別等

- 医療機関で選別した上で破損、劣化、汚染が生じないように他の使用済み医療機器と区分して保管、運搬する。
- 使用した医療機関の名称及び所在地、収集年月日、選別の確認結果等の記録を保管する。

設計・製造

- オリジナル品と同等の品質、有効性及び安全性を有するよう設計、再製造する。
- 原料となる使用済みSUDを、妥当性が確認されている方法により、病原微生物その他疾病の原因となるものが不活化又は除去されるよう再製造する。
- 再製造SUDにシリアル番号等を付与。再生部品、製造、流通のトレーサビリティを確保し、シリアル番号等は、本体に表示する。

インフォメーション

会社の概要 (2024年9月30日現在)

商号	ディービエックス株式会社 (DVx Inc.)
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)
資本金	344,457千円
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階
代表者	代表取締役社長 柴崎 浩
従業員数	329名
事業内容	医療用機器、関連周辺機器ならびに関連材料の輸出入および製造、売買、修理、保守点検、賃貸、リース 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療用システムの設計、売買および輸出入 医療用コンピューターの設計ならびに製造、売買 健康および医療に関する機器・器具の輸出入および製造、売買、修理、保守点検、賃貸、リース 医薬品、医薬部外品、化粧品、健康食品、日用雑貨品、介護用品および介護機器の輸出入および製造、売買、修理、保守点検、賃貸、リース 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供 古物の売買 その他付帯または関連する一切の事業および投資
営業所	北海道営業所 仙台営業所 茨城営業所 千葉営業所 群馬営業所 埼玉営業所 栃木営業所 東京第一営業所 東京第二営業所 東京第三営業所 八王子営業所 横浜第一営業所 横浜第二営業所 静岡営業所 沼津営業所 浜松営業所 名古屋営業所 近畿営業所 福井営業所 福山営業所 岡山営業所 広島営業所 島根営業所 九州営業所 沖縄営業所
出張所	山梨出張所
その他事業所	技術サービス課 物流センター

役員 (2024年9月30日現在)

代表取締役社長	柴崎 浩	取締役(社外)	堂垣内 重晴
取締役	波多野 剛	取締役(社外)	杉山 純男
取締役	宮本 聡	取締役監査等委員	宮川 猛
取締役	内田 好則	取締役監査等委員(社外)	野島 透
取締役	諏訪 聡志	取締役監査等委員(社外)	田上 昭子

大株主 (2024年9月30日現在)

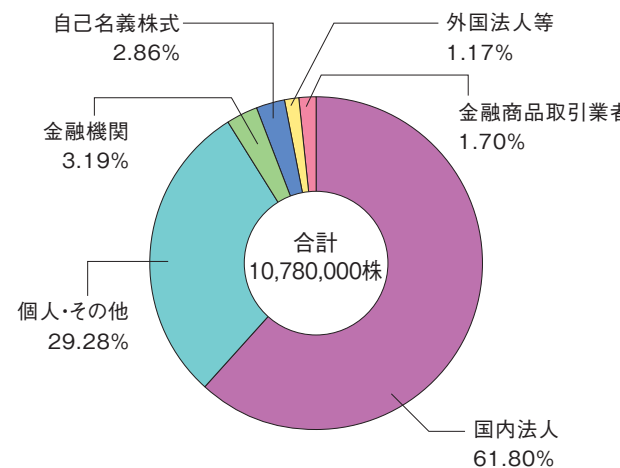
株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS	3,539,600株	33.80%
株式会社UH PARTNERS 2	926,300株	8.85%
株式会社UH PARTNERS 3	783,500株	7.48%
光通信株式会社	771,500株	7.37%
泉工医科工業株式会社	322,000株	3.07%
株式会社エスアイエル	240,100株	2.29%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	165,300株	1.58%
宮川 元	136,000株	1.30%
戸田 幸子	134,400株	1.28%
ディービエックス社員持株会	133,800株	1.28%

(注)持株比率は、自己株式(307,944株)を控除して計算しております。

株式の状況 (2024年9月30日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	10,780,000株
株主数	4,573名

所有者別株式数の分布状況 (2024年9月30日現在)



株主メモ (2024年9月30日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所(スタンダード市場)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dvx.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意)
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。